

法人会の青年部会で活動する意義 そして新しいチャレンジ

昨年、全ての法人会が新たな公益法人や一般法人へ移行したことを機に、税制・税務を中心とした社会貢献を強化していくため、新たな「理念」が決議された。その中で、青年部会は若い力を強みに租税教育活動を中心として法人会の事業を飛躍させる重要な部分を担っているが、一方で会員減少や認知度不足などの課題があることも事実である。そんな青年部会の現状と課題克服の道を、池田会長と醍醐青連協会長、二人のリーダーが論じ合う。

醍醐 まず、法人会の現状についてお話しいただけますでしょうか。

池田 会長になってちょうど丸3年経ちました。街の酒屋さんが非常に元気だった頃、酒屋さんは地域の有力者で、町内会や色々な役をされていたものです。中には法人会に入っているお得意さんもいたので、法人会や間税会、青色申告会という言葉は知っていました。が、実際どういふものかは知りませんでした。前任の大橋会長から頼まれて会長職を気楽に引き受けましたが、会員100万社、予算100億と聞いてびっくりしました。これだけの規模と予算金額の団体は他にはないでしょう。色々レクチャーされましたが、とにかく凄いいことをやっている組織だと思っただけが正直なところですよ。



租税教室の話を聞いたときも最初はピンと来なかったんですが、青年の集いで発表を初めて聞いた時は感激しました。法人会は今、新しい理念のもとでさらに発展し続けなければいけないわけですが、課題の一つとして会員の減少があげられると思います。60年の

歴史があり仕組みも変わりましたが、ちょうど転換期に来ているのかもしれないですね。

醍醐 会員の減少というお話が出ましたが、青年部会もまさにそこが問題だと思っっています。現在、租税教育活動を柱に活動していますが、その質と量をアップしていきたい一方で部会員数が減り、活動自体が限定されてしまっています。頑張れば頑張るほど部会員の負担になってしまふ。そんな状況も踏まえ、青年の集いの部会長サミットでは部会員増強をテーマに議論するつもりです。リーダーがいかに強い思いを持ち続けられるか、いかに新しい部会員を獲得し、その部会員を定着させていくか、とても大事だと思っっています。

池田 二代目も入っているわけですよ。比率はどれぐらいですか？

醍醐 正確な数字はちょっと分からないのですが、全国の部会員3万人の中で、二代目、三代目の人が多いと思います。

池田 実はこの前の徳島大会の時、かつてのお得意先と昼飯を食べたんです。そこで「法人会には入ったとるやろうな」って聞いてみたら「いや、俺の時は入ってただけで、息子に（代が）替わったら退会したようだ」と言われてね。世代交代の時、確実に法人会も引き継いでもらわないと、と思っ

す。あと、若い経営者さんには、まずは青年部会に入りませんかというアプローチがいいんじゃないかな。親会は大変なイメージがあるけど、同じ世代でワイワイ楽しくやっていると、誘いやすいと思っ

それから、単位会の青年部会はそんなに大勢の組織ではないですよ。だから、活動してもらっている方々にはかなり負担をかけているんじゃないかと思っ

醍醐 確かに単位会によって温度差があつて、凄く頑張るところや逆にそこまでやらなくてもいいんじゃない



か、ということもありません。池田 頑張っているところを増やすのが一番手っ取り早くて、底上げはなかなか難しい。営業成績もそうで、誰か一人がトップを走るから他の営業マンも頑張ろうとする。その結果、平均が上がる。親会でも青年部会でも、たった一つじゃ困るけれど2割ぐらいの部会がもの凄く実績を上げてくれると、じゃあ俺たちも、となるかもしれません。

法人会の認知度について
醍醐 法人会は素晴らしい活動を沢山行っているにもかかわらず知名度があまりに低いと感じています。友人に話しても「え、何？ 法人会って」って言われます。親会なら全国80万社、ちよつと前まで100万社もあつて凄

ないの？」と言われるのが9割。国税庁が監督官庁だったことでオーバードレゼンテーションを自粛した経緯があるからかもしれません。公益になってから、逆にそこから正式に離れた不安感も多少お持ちだと思っ

租税教育への取り組み
醍醐 うちの雪谷法人会では租税教室が今、凄く活発なんです。何故かという

いっていうことを子どもたちに教えることは物凄く大切で、それをやっている現状をもっとPR出来るといいと思っ

いろいろな人との出会いが
法人会の最大のメリット
池田 法人会はいろんな人たちがたくさん集まっていますというメリットをもっと前面に出すべきだと思っ

体的にはどういふことかなど、皆興味津々だったし、逆にトヨタの張さんがアメリカで工場を立ち上げたときの苦労話なんか聞くと、すごく新鮮に感じられましたね。若いとき、自分の商売を離れてそういう色々なことを知ることとは非常に貴重だと思っんですよ。

醍醐 私も三代目で、父が単位の親会の副会長だったんですが、最初はちよつとうさんくさい団体だなと思ってました。だから、減多に行かなかつたんですけど、ある時、よく話しかけてくれる人がいて、それをきっかけに面白いと感じ始め、いつの間にかはまっていききました。知らない業界の人と話せることが何より魅力です。

池田 新しく入ってきた人を、どうフォローするかも大事ですよ。最初の半年ぐらいでいいところに入ったなと感じてもらうことが大事です。

醍醐 知らないところに来て誰とも話さないで帰っちゃったら、もう二度と来ないですからね。これだけ知らない業界の色々な人達がいるのもつたいないと思います。

会員増強と、もう一つの新しいチャレンジ

醍醐 実は、青連協会長をやらせていただく2年間で、新しくやろうとしている活動があります。一つは先ほどの会員増強、もう一つは税の「出」の部

分についてです。法人会は今まで税知識の普及と納税意識の高揚を中心にやってきましたが、それってどちらかというと税の「入り」の部分でした。税のオビニオンリーダーたる経営者の団体としては、出の部分についてもこうだと提言できるようになっていくべきではないかと思っっています。親会は税制委員会で検討したこともあるようですが、なかなか話しにくかったと思っつてます。でも、我々青年部会ってまだ怖いもの知らずですので、若い世代から見た税の使い方について提言できるようにしたいと思っっています。最初の1年は林前国税庁長官や、財務省主計局の調査課長の方に社会保障制度全



般についてのお話をしていたり、勉強をされているところですよ。

池田 これは大事ですね。日本は省庁別に予算が立てられますが、予算規模では、厚労省・総務省・国交省・文科省の順だと思っいます。この仕組みにメスを入れない限りは、出の部分がなかなか改革できない。入りの部分は結局出の部分とのバスターだから、なかなか難しいと思っつてます。

つまり、日本の税収を回るといふ意味では間接税を増やしていくことしかないだろうと思っいます。だから、そのためのインフラをどう作っていくかが今、我々法人会が言っつる法人税の減税ということ、要するに競争上不利

利にならない税制にした上で、間接税にウエイトをかけていかないとけない。逆に、国民にとってみれば現役世代が負担するという社会保障の仕組みを変えない限りは、もう駄目だろうと思っつています。でも、青年部会がやるとしたら、まずあまり大きな提言ではなくて、何かテーマを絞った一番身近な税の使い方についてメスを入れた方がいいかもしれない。

醍醐 ぜひ、次の会長にも引き継いで、青年部としての提言を出し続けていけるように出来ればと思っいます。では、最後に全国の青年部会員にメッセージをお願ひいたします。

池田 いつも青年部会員の皆さんには熱心に活動していただき、全法連の会長として大変感謝してしています。

租税教育活動に代表されるような活動にも非常に感銘を受け、皆さんの熱意を感じております。今、親会として新しい行動理念を決めて、皆さんもその下でやっつていただいています。活動を活性化するのはやはり、会の組織をきちんとすることであらうと思っつています。親会では会員増強を一つの大きなテーマにしていますが、青年部会がますます活発になるといふことが、イコール親会の活動になると私は思っつています。ぜひ、皆さんの力を合わせて、ますます法人会を活発にしてください。ことを期待してしています。



税を考える週間に 第21回税金ウルトラクイズ

〔青森〕 青森法人会青年部会は11月7日、青森税務署の協力によりシヨッピングセンター・サンロード

青森で、第21回「税金ウルトラクイズ」を開催した。子供たちに税金を楽しみながら身近に感じてもらう「税を考える週間」の一環事業として毎年行っつており、小学5、6年生62人が参加、保護者や買物客を含め100人近くが観



覧した。本戦に参加するための税金テストに臨んだ後、予選ブロックに進出した上位16チームはステージ上で税に関する3択問題に挑戦。予選ブロックを勝ち抜いた4チームが早押し形式の決勝戦に進んだ。第1問はスペシャルゲストの青森税務署宮本署長が問題、またマイナンバー制度に関する問題では、いち早く解答権を得たチームが個人番号の桁数を言い当てるシーンに会場も大興奮。優勝者にはユニバーサルスタジアムジャパンワンデイスタジオパスの目録と旅行券が贈呈され、今年も盛會に終了した。

社団化30周年記念 村田兆治氏講演会

〔二本松〕 二本松法人会（福島）研修委員会は11月13日、二本松御苑において同法人会社団化30周年記念事業として、村田兆治氏を講師に迎え「人生先発完投 限界への挑戦」を継続は力なり」と題し市民講演会を開催。会員と一般市民約130人が聴講した。

1967年、ドラフト1位指名で東京オリオンズに入団した村田氏は、



「マサカリ投法」を編み出しエースとして活躍。82年に右肘を痛め再起不能と言われたが、翌年渡米、日本人選手として初めて右肘にメスを入れる手術の後、血の滲むようなリハビリを乗り越え85年、復活。シーズン初登板から3週連続日曜日に完投勝ちし「サンデー兆治」の異名を取る。90年10月には西武戦で完投勝利を収め、40歳投手として史上2人目41年ぶりの2桁勝利、23年間で215勝、最優秀防御率をはじめ数々のタイトルを獲得した。

現在は野球評論家として活動しつつ、92年から「豪腕・村田兆治、島を行く」として全国の有人離島で野球教室などを通じて離島の人々とふれあい、島お

どまんなかフェスタ佐野クイズ大会を開催

〔佐野〕 佐野法人会（栃木）では、11月1日のどまんなかフェスタ佐野2015に出席し「税金クイズ大会」を開催した。佐野市内に日本列島の「どまんなか」があることに因んだイベントで、毎年11月上旬に市内北部の田沼グリーンスポーツセンターで行われる秋の収穫祭。今年は4万2千人の来場者で賑い、地元企業や各種団体の95ブースには、佐野ラーメンやイモフライ、大根そば、地酒、しんこうまんじゅう、採れたて野菜など、名産品や特産品が並んだ。中央のステージでは、和太鼓